

季語一覧表 (og10gr 国語学習用)

- 季語（季題）……春、夏、秋、冬の季節を表す言葉が季語で、それぞれの季語がどの季節に属するかは約束によって定められています。
- 季語は昔使われていた旧暦（太陰暦、陰暦）をもとに分類されています。また、現在使われている新暦（太陽暦、陽暦）とは一か月少々のずれがあり、今の感覚ではとらえにくいものがありますから注意が必要です。

※ 季語は五十音順に並べてある。太字のものが傍線の引かれたものは特に重点的に覚えておこう。

	春	夏	秋	冬
	旧暦 1・2・3月	旧暦 4・5・6月	旧暦 7・8・9月	旧暦 10・11・12月
	（新暦2・3・4月）	（新暦5・6・7月）	（新暦8・9・10月）	（新暦11・12・1月）
生き物	初雀 初鶏 新年	青蛙 雨蛙 鮎 蟻 うなぎ 蚊 かたつむり 甲虫 金魚（金魚売り） 黄金虫 蝉 蠅 蛭 ほととぎす みみず 目高	赤とんぼ いなご 馬肥ゆる かまきり 雁 啄木鳥 きりぎりす こおろぎ 小鳥 鮭 秋刀魚 鈴虫 つくつくぼうし とんぼ ばった 蛸 法師蟬（つくつくぼうし） 椋鳥 虫 渡り鳥	鬼 鵜舟 牡蠣 鴨 寒雀 鷹 千鳥 鶴 白鳥 河豚 ふくろう 冬の蜂（冬蜂） 水鳥 鷺
植物	梅 梅が香 草の芽 桜 桜草 葎 すみれ草 薇 蒲公英 土筆 椿 梨咲く 菜の花 花 桜花の雲 花散る 藤（花） 糸瓜（花） 芽吹く 桃（花） 柳 山吹 よもぎ 林檎（花） 若草	青葉 紫陽花 あやめ いちご 卯の花 瓜 桑 早苗 菖蒲 新緑 筍 茄子 葉桜 万緑 向日葵 牡丹 百合 若葉	朝顔 無花果 柿 菊 菊の香 きのこ 桐 一葉 栗 草の花（草花） 鶏頭 西瓜 すすき 団栗 梨（実） 野菊 萩 花 いばら 花畑 彼岸花 葡萄 糸瓜（実） 鬼灯 松 たけ 曼珠沙華 紅葉 桃（実） 木槿 林檎（実）	落葉 枯れ尾花 枯れ枝 枯れ木 枯野 枯葉 寒椿 木の葉 山茶花 水仙 大根 大根引き 人参 ねぎ 白菜 冬木立 蜜柑
気象・天文など	暖か 淡雪 うららか おぼろ月 陽炎 霞 東風 残雪 雪崩 のどか 花曇り 花冷え 春一番 春雨 水温む 山笑う 雪解け 雪残る 余寒	秋近し 暑さ 風薫る 雷 雲の峰 五月晴れ 五月雨 涼風 涼風 涼しい 梅雨 梅雨明け 虹 西日 入梅 日盛り 短夜 夕立 タなぎ 夕焼け	秋風 秋雨 秋空 秋晴れ 秋深し 朝冷え 天の川 稲妻 鰯雲 霧 さわやか 残暑 月 月夜 露 流れ星 野分 台風 冷ややか 星月夜 三日月 名月 夜寒 夜長 流星	霰 息白し オリオン（座） 寒雷 北風 氷 木枯らし 小春日和（小春、小春日） 寒さ 時雨 霜 霜柱 短日 冷たい つらら 初雪 吹雪 山眠る 雪 流水
行事・生活など	お年玉 賀状 門松 鏡 開き 鏡もち 書初め 元日 元旦 独楽 新春 新年 すぐろく 七草がゆ 年賀状 羽子板 初春 初富士 初詣 初夢 羽根つき 万歳	朝寝 遠足 春 暁 卒業 田打ち 風 種まき 茶つみ 苗代 入学試験 野焼き 畑打ち 八十八夜 花見 春の海 彼岸 桃の節句 雛（ひな人形） 雛祭り 麦踏み 山焼き	赤い羽根 秋立つ 秋の夜 十六夜 稲刈り 運動会 案山子 刈田 障子はる 十五夜 相撲 七夕 月見 二百十日 墓参り 布団 星祭り 盆踊り 身にしむ	埋み火 大晦日 風邪 火事 こたつ 七五三 障子 除夜 師走 スキー スケート すすはらい 炭 炭火 咳 節分 たき火 竹馬 足袋 暖炉 手袋 年の暮れ 火鉢 麦まき 雪遊び 雪だるま 雪野原 雪見

● **陰暦**（太陰暦、旧暦）は、月の満ち欠けによって日を決め、満月の日を十五日とした昔の暦ですが、一年が354日になりました。現在採用されているのは陽暦（太陽暦、新暦）で、これは地球が太陽の周りを一周する時間、365日を一年とするものです。

● 陰暦では、一月、二月、三月を春、四月、五月、六月を夏、七月、八月、九月を秋、十月、十一月、十二月を冬としました。ですから、正月というのは今は冬の盛りですが、昔は春の初めだったわけです。

● **立春**とは「春の始まる日」という意味です。昔の暦（太陰暦、陰暦、旧暦）では一月の初め頃にあたり、**立夏**は四月の初め、**立秋**は七月の初め、**立冬**は十月の初めにあたりました。今の暦（太陽暦、陽暦、新暦）では、**立春**が二月四日ごろ、**立夏**は五月六日ごろ、**立秋**は八月八日ごろ、**立冬**は十一月八日ごろとなります。

● 語意（五十音順）

朝寝……朝遅くまで寝ていること。朝寝坊。
淡雪……泡のように軽くて溶けやすい雪。

十六夜……陰暦八月十六日の夜の月。「いざよい」は「ためらうこと」の意味で、満月（十五日）の翌晩は月の出がやや遅くなり、「月がためらうようになかなか出ない」ことからこの名がある。

馬肥ゆる……秋になって、馬が肥えてたくましくなる。※秋の季語

鏡開き……正月に供えた鏡もちを割って汁粉などに入れて食べる行事。

陽炎……日光で熱せられた地面から炎のようにゆらゆらと空気が立ち上る現象。
霞……遠方の景色が霧などでかすんで見える現象。

風がおる……初夏の青々とした草木を渡って風がさわやかに吹くさま。※夏の季語
枯れ尾花……枯れすすき。

寒椿……寒中（冬の寒さの厳しい期間）に咲くツバキ。

桐一葉……桐の葉が一枚落ちるのを見て、秋の訪れを知ること。※秋の季語

雲の峰……入道雲。

東風……春の東寄りの風。春風。

小春（日和）……冬の初め頃に現れる、暖かく穏やかな晴天。※冬の季語

早苗……苗代（稲の苗を育てる水田）から田に植えかえるころの稲の苗。（苗…発芽して間もない植物）

五月雨……梅雨。※夏の季語

時雨……冬の初め頃に降ったりやんだりする雨。※冬の季語

十五夜……陰暦八月十五日の夜。古来、名月をめでて月見をする。

除夜……大晦日の夜。

師走……十二月の古称。

雀の子……春に卵からかえったばかりのすずめのひな鳥。※春の季語

節分……立春（新暦では二月四日ごろ）の前日。夜、鬼払いの豆まきなどをする。暦のうえではこの日までが冬で、翌日の立春からが春となる。※冬の季語

田打ち……田植えに先立って、田の土をすき返す（掘り起こす）こと。

端午（の節句）……菖蒲やよもぎを軒に飾り、ちまきや柏餅を食べ、鯉のぼりを立て人形を飾り、男子の成長を祝う。※夏の季語

土用……立秋（新暦では八月八日ごろ）前の十八日間。暑さがもっとも厳しい時期。

苗代……稲の種子をまいて苗（発芽して間もない植物）を育てる水田。

二百十日……立春（新暦では二月四日ごろ）から二百十日目の日（新暦では九月一日ごろ）。台風への注意を喚起する日。

野分……台風。※野分き、とも書く。※秋の季語

葉桜……花が散り若葉が出たころの桜。※夏の季語

八十八夜……立春（新暦では二月四日ごろ）から数えて八十八日目の日（新暦では五月一日〜二日ごろ）。種まきの適期とされる。茶どころでは、茶つみの最盛期となる。

初鰯……五月ごろ、その年でいちばん早くとれるかつお。※夏の季語
初雀……元日の朝のすずめ。また、その鳴き声。

花の曇……桜の花が一面に咲いて、雲のように見える様子。

春一番……立春（新暦では二月四日ごろ）を過ぎて、その年初めて吹く強い南風。

万緑……あたり一面、草木の緑に覆われていること。※夏の季語

彼岸……春分の日（新暦では三月二十一日ごろ）、秋分の日（新暦では九月二十三日ごろ）の前後三日を含めた七日間。

星月夜……星が輝いて月が出ているように明るい夜。

星祭り……七夕祭り。

万歳……新年を祝い、家々を訪れ、腰鼓を打って歌い舞う芸能。三河万歳や大和万歳などが知られる。

短夜……夏の短い夜。

麦の秋……麦が熟し、刈り入れをする初夏のころ。※夏の季語

麦踏み……麦の根の張りを強くするために、麦を足で踏みこむこと。

山眠る……冬の山がひっそりとしていて、深い眠りに入るように見える姿をいう。眠る山ともいう。

山笑う……春の芽吹き始めたはなやかな山の感じをいう。笑う山ともいう。

タナギ……夕方、海辺で昼の海風と夜の陸風とが交代するとき、しばらくの間風がやむこと。（「朝なぎ」は朝、海辺で夜の陸風と昼の海風とが交代するときの一時的な無風状態で、やはり夏の季語。）

余寒……立春（新暦では二月四日ごろ）のあとに残る寒さ。※春の季語

流水……寒帯地方の海水が割れて流れ出し、海上を漂っているもの。

若鮎……春に川をさかのぼる、若い元気な鮎。